

研修視察の報告書

氏名	定方 英一
委員会	建設水道委員会
視察年月日	平成 28 年 7 月 12 日（火）～14 日（木）
視察先	盛岡市・小樽市・札幌市

盛岡市 ＊グラウンドワーク公園整備事業について

1、はじめに

盛岡市は、雄大な岩手山の裾野に広がる北上盆地のほぼ中央部に位置し、東京 2 3 区の 1.4 倍の面積を誇り、豊かな自然環境に恵まれ良好な田園景観を形成する、人口 3 0 万人の中核市であります。
岩手県の県庁所在地として、政治・経済・教育・文化の中心として発展、市政施行 1 2 7 年の歴史と共に、今年秋には「希望郷いわて国体」も開催されます。



建設水道委員会（市役所前にて）



説明員の職員

2、事業概要

盛岡市においては、地域に密接な関係がある街区公園 421 個所の中に、少子高齢化の進行に伴い利用者が減少し、荒れるままに放置されている状況の公園も生じている。地域によっては「自分たちで出来ることは、自分たちでやろう」という意識のもとに、地域の環境整備に取り組んでいる町内会等があり、市としても経費の削減・市民協働によるまちづくりにも繋がることから、このグラウンドワークの手法を取り入れ、地域住民の意向を酌み、住民に親しまれ利用される公園となるようリニューアルを進めています。その手法として取り入れたのが「グラウンドワーク」です。

グラウンドワークとは？、1980 年代にイギリスの農村で始まった実践的な環

境改善活動のことです。住民が行政や企業とパートナーシップをとりながら、地域の環境改善活動に乗り出します。その、三者の仲介役になるのが、トラストと呼ぶ専門組織です。トラストは環境問題に関心の高い人達や女性、中高年者の就職の場にもなるだけでなく、人々の生き甲斐の場ややりがいの場、社会貢献の場にもなっています。

1995年には財団法人日本グラウンドワーク協会が設立され、活動を行っています。

地域を構成する「住民」「行政」「企業」の3者がパートナーシップを組み、グラウンド(生活の現場)に関するワーク(創造活動)により、生活の最も基本的な要素である自然環境や地域社会を整備・改善していく活動です。



事業の効果として

(1) 住民側

◎地域が望む公園整備ができる。

◎住民が計画設計段階から主体的に参加し、行政、企業と協力し合える。

◎公園に対する住民の愛着が強くなり、整備後の維持管理に積極的に取り組む。

◎子ども達が参加することで世代間交流の場となり、高齢化する町内の活性化につながる。

(2) 行政側

◎地域のニーズに合った公園整備が早期に実現でき、整備費が軽減できる。

◎地域住民の参加により公園愛護会活動も盛んになり綺麗な公園に保てるこ

とで、維持管理費が軽減できる。

(3) 企業側

◎地域貢献を通じて企業イメージの向上と企業PRができる。

◎ビジネス機会が増大する。

3、まとめ

盛岡市のグランドワーク公園整備事業とても参考になりました。

伊勢崎市においても街区公園は 138 箇所あります。

そのほとんどは、行政指導型で住民の意見・協力は皆無であったと思います。今回のグランドワーク公園整備事業は、地域・行政が一体になり、公園整備する最初の段階で、住民の声を聞いて一緒に造る、そうすることにより自分たちの公園であることを認識する。これが大事なのではないのでしょうか。そうすることにより、その後の管理等においても、公園愛護会の結成にもつながり、経費の削減と共に愛着の持てる公園にもなります。

地域住民の憩いの場・地域の活性化・コミュニケーションの場にもなる公園はこれからも必要であります。整備・管理の手法は色々考えられますが、本市も参考にする価値はあると思います。



小樽市 * 橋梁長寿命化修繕計画について

1、はじめに

小樽市は、北海道西海岸のほぼ中央、後志地方の東側に位置し、古くから北海道有数の港湾都市として発展してきました。大都市札幌から 40 km の距離にあり鉄道では札幌駅から 30 分新千歳空港駅から 70 分の所要時間になっています。市内に 100 店舗以上を構える寿司の街として知られることなどから観光都市としても人気が高く、毎年 700 万人以上の観光客が訪れています。市町村の魅力度ランキング調査ではトップ 10 にラ

ンクインする魅力ある都市になっています。

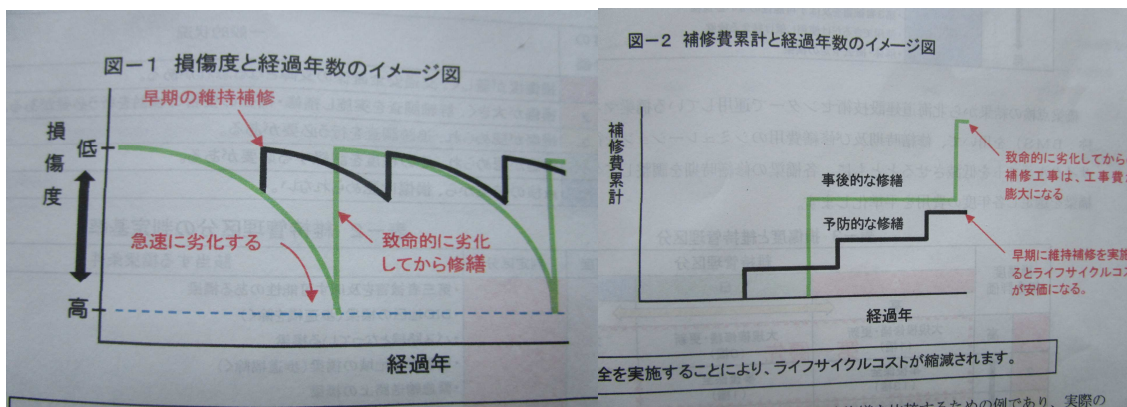
人口は昭和39年の20万人をピークに年々減り続き、今では12万人となっております。

小樽運河の倉庫群をはじめとする近代建築が有名であり、先ほど述べた通り近隣諸国や日本全国から観光客が年間を通して訪れる観光業が盛んなまちです。一方、明治時代から、燈火用品、薬瓶、漁業用浮き玉などが製造されてきたガラス製品は、小樽市を代表するブランドの一つになっています。また、ニシンをはじめとする多種多様な水産物を、小樽港より本州へ海上輸送するため、水産加工業が盛んなまちであります。



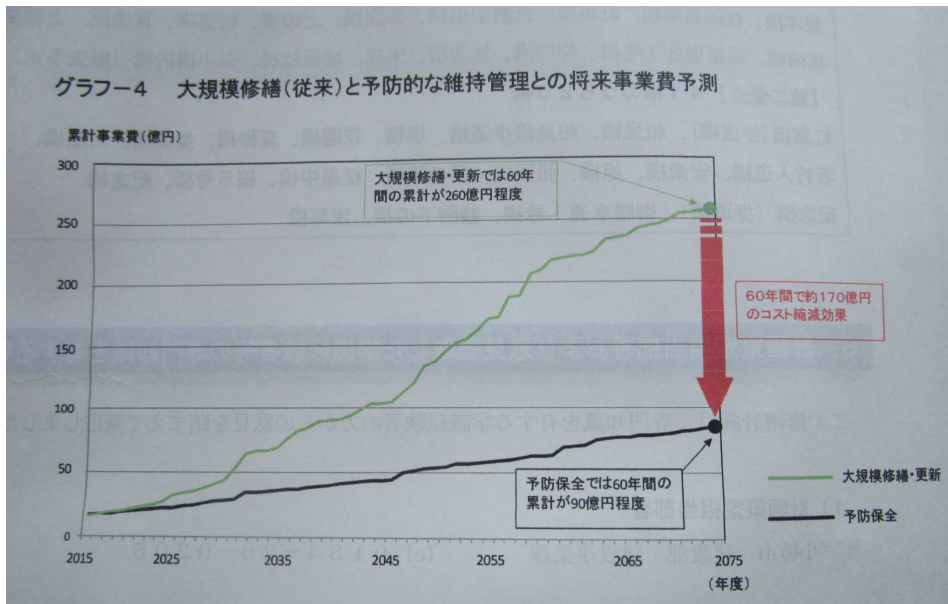
2、概要

- 1、現状、小樽市が管理する橋梁は135橋あり、50年を経過した橋39橋・40～50年26橋・30～40年33橋となっており、20年後には、建設50年以上の橋が全体の72%98橋となり急速に老朽化が進むことになります。
- 2、目的、計画的な修繕を実施し安全で円滑な交通を確保しつつ、橋梁の長寿命化を図り維持管理の効率性を高め修繕・更新費用の縮減を目指します。このためには、従来の事後的修繕でなく、定期的な点検に基づく予防的な修繕を実施するように方針転換するとともに、修繕年度の前倒しや先送りにより維持管理費の平準化に努めます。



- 3、効果、この修繕計画では対象となるすべての橋梁について、事後的な対応

と予防的な対応の場合のコストについて比較しています。



これに基づき予防的な維持管理に転換することにより、今後60年間で検討した場合には170億円の維持管理コストの縮減が見込めます。



3、まとめ

小樽市が取り組んでいる、橋梁長寿命化計画は伊勢崎市においてもすでに実施している事業であります。伊勢崎市では624橋あり110橋が15m以上あります。その110橋を対象に計画を立て、コスト削減効果は、182億円と小樽市とほぼ同じ様な効果になります。これは机上の上の数字かもし

れませんが、転ばぬ先の杖の如く、長寿命化の計画をもって望むことが大事であります。

とかく、公共事業が悪のように捉えられる今日であります。必要なものは必要なのではないでしょうか。そこに住む住民が安心して住める暮らしが、大事ではと思います。

伊勢崎市は、がけ崩れの心配など災害の心配が少ない地域であります。

唯一の出来事は、大昔台風（カスリーン台風）での河川の氾濫であります。昭和22年9月15日、広瀬川や粕川の堤防が決壊し、42本の橋が流失し、死者40人・流失家屋259戸・床上浸水5,230戸の大災害となりました。その供養を込め美茂呂の花火大会が毎年開催されてきましたが、今年が最後（8月20日開催）とか。とても残念です。

元に戻りますが、小樽市では、冬期間、凍結などにより橋の損傷が激しいものもあり大変であると感じました。事例として、排水柵の土砂詰まり・沓座の土砂溜まりなどがあり、北国のつらさも垣間見ました。

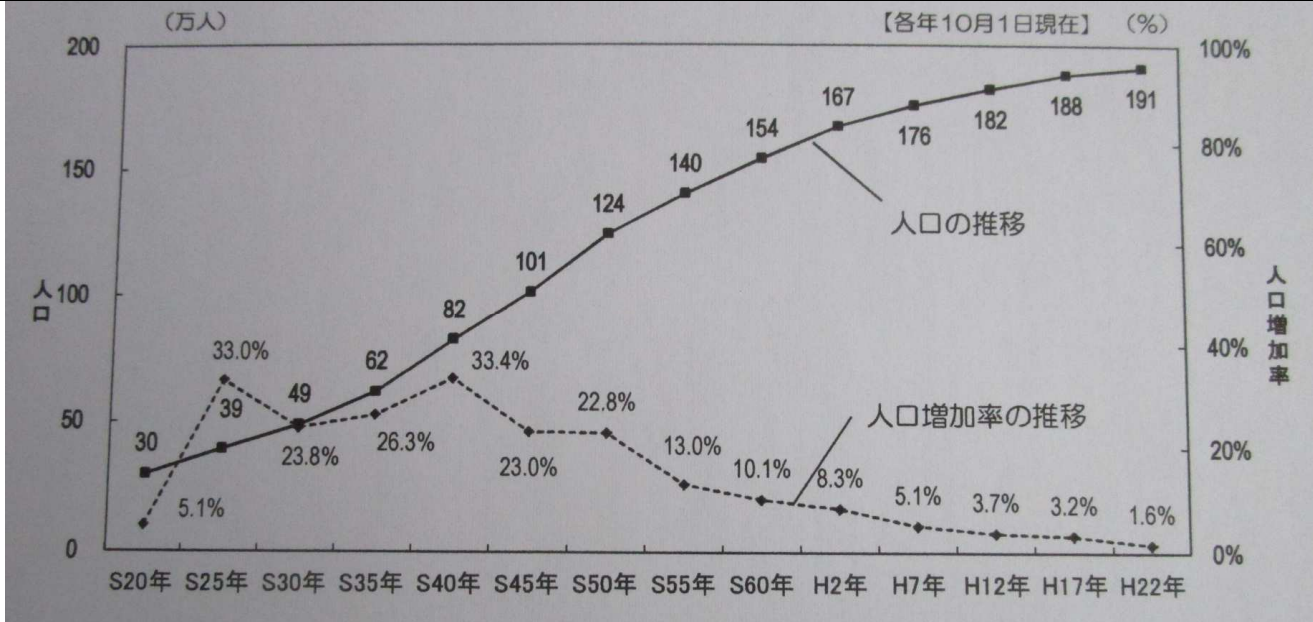
ともあれ、今回の視察で学んだことを生かして行きたいです。



札幌市＊市営住宅の管理について ＊住まいの協議会について

1、はじめに

札幌市は、厳寒の石狩の原野に北海道開拓の拠点として創建されて以来140年の間に、人口194万人を擁する大都市へと急成長した世界的にも稀な都市です。アイヌの人たちが住んでいた蝦夷（えぞ）地は、明治2年（1869年）に北海道と改称され、明治8年最初の屯田兵が入植。人々は遠大な札幌建設計画に基づいて、鉄道を敷き、産業を興し、道都・札幌を築きました。大正11年（127,044人）市制施行以来、市域・人口を拡大し、昭和45年には人口が100万人を突破しました。



札幌市人口推移。

2、事業

1、市営住宅の管理について。

公営住宅法上事業主体が行う業務と定められた業務を除く、全ての管理に係る業務を昭和52年に札幌市が100%出資の住宅管理公社に委託していました。その後地方自治法の改正により、平成18年度より指定管理者制度を導入することになりました。

1 市営住宅管理状況 (平成28年3月31日)

住 宅	住戸数	棟 数	世帯数	入居者数
公営住宅	26,504	740	24,476	48,384
改良住宅	713	17	474	679
更新住宅	116	2	111	183
コミュニティ住宅	52	2	52	87
リロケーション住宅	100	2	0	0
計	27,485	763	25,113	49,333

上記のように、5万人弱の入居者です。

国に於いても、昭和41年に住宅建設計画法が制定され、住宅建設を計画的に進め、国民生活の安定を図ることを目的として、以降平成17年までの間、国と地方はそれぞれ「住宅建設五箇年計画」を策定し、主に公的住宅の供給に関する政策を推進してきました。

しかし近年は、住宅が量的に充足する中で、人口減少社会の到来、少子高齢化の進展、家族形態の変化、住宅の確保を配慮すべき世帯のニーズが多様化するなど、住宅をとりまく社会情勢は大きく変化しており、国では平成18年以降、関係法令の制定や改正を進めてきておるのが現状です。

市営住宅の募集は公募により時期を定めて募集し、応募者複数の場合

は公開抽選により決定しており、毎年の募集戸数は600戸前後で、応募倍率は平均で25倍前後であります。

住宅管理公社と指定管理者の業務については。

- ・入居者の収入状況や、家族構成等、プライバシーに深く関わる業務は指定管理者制度導入前と同様、札幌市住宅管理公社に業務委託。
- ・維持修繕、保守管理といったハード的な管理は指定管理業務。
- ・ハード的な管理の内、計画修繕については長期的な計画に基づき実施する業務であるため4年間を期間とする指定管理業務には馴染まないことから管理公社に業務委託。
- ・空き家修繕については、入居者募集業務に深く関わる業務であるため、管理公社に業務委託。



2、住まいの協議会について

設置に至る経緯ではありますが、平成元年12月、複雑かつ多様化している住宅問題の解消を図り、良質な住宅ストックの形成及び居住水準の向上に努めるため、21世紀に向けた新たな住宅対策の在り方等について、学識経験者・関係行政機関および市民各層から幅広く意見・提言を求める「札幌市住宅対策協議会」を設置しました。

時がたち、平成21年9月、市民にわかりやすく情報を提供するとともに、幅広い市民参加の機会を設けることを目的とし、協議会の委員構成に市民委員を明確に位置づけし、併せて協議会の名称が市民に親しまれるよう「札幌市住まいの協議会」と変更しました。

協議会の構成は学識経験者5人関係団体5人市民2人の12人です。運営については、

- ・北国の生活に根ざした好ましい居住水準及び住環境水準の設定とその達成
- ・公的住宅と民間住宅の役割分担のあり方
- ・高齢化社会に対応した住宅政策のあり方
- ・住宅の適正な維持管理システムの確立
- ・市営住宅の適正な家賃設定のあり方
- ・その他住宅対策に関すること等であります。

3、まとめ

住まいの問題は、我々が暮らしの上で一番重要なテーマであります。しかし、時代が進むにつれ、住宅政策は大転換期に来ているように感じます。

自力では適正な水準の住宅を確保することのできない低所得者や、住宅を確保しにくい高齢者、障害者、子育て世帯に対して的確に住宅を供給するのが公営住宅の役割であります。伊勢崎市においては「定期入居制度」を導入しております。従来、公営住宅では入居期間の期限がありませんでしたが、伊勢崎市では全ての住宅を対象として10年を超えない範囲で入居希望者がマイプランシートを作成することにより自分で退去日を決めております。その事を札幌市でお話したら驚いておりました。おそらく、期限付き契約を結んでいる自治体は少ないと思います。

伊勢崎市では市営住宅2,000戸・県営住宅1,000戸あります。近年では空き室も多くなっております。それでも毎年のように建て替えを実施しております。

今回の研修で「札幌市住まいの協議会」はとても参考になりました。

伊勢崎市においても是非「伊勢崎市住まいの協議会」なるものを設置し、今後の市営住宅の在り方を検討してはと強く感じました。

